



# 安行小だより

安行小学校 1月号

令和6年1月9日

目指す学校像

よさを認め、学び合い高め合い、やる気と笑顔あふれる学校（個の伸長 公の育成）

～伝統と地域と共に励みて進む安行小150年～

校長 春川 嘉孝

うさぎ年の令和5年、開校150周年に向けて、まさに「飛躍・向上」を目指し、学校・家庭・地域が一体となって取り組みました。ありがとうございます。令和6年は「たつ年」。たつ年は「努力が実を結び成就する年」とも言われます。まさに、151年目の安行小、安行小に通うすべての児童、家庭、地域の皆様にとって、そうなるよう教職員一同、取り組んでまいります。本年も、教育活動へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

## Grab For Green!

都内の駅近くにこんな看板（メッセージ）を見つけました。

人が生きているんだ。ゴミが出るのは当たり前。  
 どんなに時代が進化して。  
 誰かが捨てたゴミやタバコを勝手に拾ってくれるロボットが道路を歩くようになったとして。  
 それは、便利なのかな。そんな未来はちょっと嫌だな。  
 落ちているゴミを見つけたら、見逃さないで、  
 少しだけ手をグローブに変えてみる。  
 ゴミを拾って、ポイッと投げる。  
 そう！「ポイ捨て」するのは「道路」じゃなくて「ゴミ箱」に  
 ゴミを捨てることは、未来を掴むこと。  
 わたしたちが住みたいcleanでgreenな街や世界は  
 その先にあるはずだから。



認定NPO法人グリーンバードは「きれいな街は、人の心もきれいにする」をコンセプトに誕生した原宿表参道発信のプロジェクトです。

「Grab For Green!」（認定NPO法人グリーンバード）より

このメッセージを読んで、皆さんが一番心に残る部分はどこでしょうか？

これからの時代、未来はどんどん進化して「AI」「ロボット」の進歩が速く、私たちの生活は便利なものとなるでしょう。「ゴミを拾うロボット」は現実的で、すでにあるのかもしれませんが。その「ロボット」が、もし校内を動いていたら、皆さんが歩く道路を動いていたら、どうでしょうか？自分たちの住む場所をきれいにしたいという気持ちは誰もが持っています。そして「ポイ捨て」が街を汚すこともわかっています。

地球全体を考えても「ゴミ問題」の解決は喫緊の課題です。地球全体、世界の問題を解決するために、積み上げていくこと。それが、身近な地域の「ゴミ拾い」。「ゴミを捨てることは、未来のきれいな世界をつくること」そのために、自分ができる「第一歩」を踏み出そう。そう感じられるメッセージだと思います。

### 一年の始まりの月に、皆さんはどんな一歩を踏み始めますか？

先日「国境なき医師団」のトークイベントに参加しました。今、各地域で行われている紛争地域等で医療活動をしている団体です。現実として目に入る景色、限界、命を守りたいという使命感に、ただただ感心させられました。同時に、何もできない自分がいることも。

イベントでは、紛争の悲惨さを伝えるだけではなく「私たちも何かできることある」ことを示唆していました。「フェイクニュースがあふれている」「紛争がなければ、どこにでもあるような豊かな暮らし」「民衆の声を届けることが救う力になる」「知ることの大切さ」そして「関心を寄せること」「想像力と実践」。

どこの国や地域でも、私たちと同じように「笑い」「楽しみ」暮らしています。そのことを想像したとき「よその国のこと」とはとても思えない。「自分に何ができるか」。